

伊沢小学校で河川環境学習を開催しました。

伊沢小学校4年生の児童を対象に、「汚水のお話」では、自分達が普段どのくらい水を使用しているか、また汚水処理施設のことや汚水がきれいになるしくみ等について学びました。「川を学ぼう」では、川と人との関わりや具体的な取り組みについて学習しました。最後に身近な川の水や生活排水の水質検査、透視度検査を体験し、水をきれいにする事の大切さを学びました。

【実施概要】

日 時：平成23年9月28日（水） 10：40～12：15

場 所：伊沢小学校 4年生教室

参加者：伊沢小学校 4年生	31名
徳島県 河川整備課	1名
徳島県 下水環境課	2名
阿波市	1名
フジタ建設コンサルタント	3名

内 容：1 汚水のお話	徳島県 下水環境課
2 川を学ぼう	徳島県 河川整備課
3 水の汚れの原因（水質実験 パックテスト）	フジタ建設コンサルタント

感 想：下水道という言葉は知っていましたが、汚れた水が処理施設でどのようにきれいになっていくのかを初めて知りました。100年も前にその仕組みが発明されたことにも驚きました。そして、使った川の水がきれいになってまた川にもどっていくので、汚した水をできるだけ流さないように、また、川にゴミを捨てないようにしようと思いました。

【活動状況】

○「汚水のお話」

下水道について、また阿波市には集合汚水処理施設（集落排水施設）が2つある話を聞きました。汚水管が斜めに通っていることを知っている児童もいました。



水をきれいにする仕組みが、100年前のイギリスで発明されたことや、それが大量の微生物によっておこなわれることに驚いていました。また、マンホールのふたは落ちないように丸い形をしていることなどを学びました。処理後の水のサンプルを見て「きれい」とつぶやく児童もいました。



トイレトペーパーとティッシュペーパーを水に溶かす実験で、ティッシュペーパーは水に溶けないことが分かり、ティッシュペーパーを安易に水に流してはいけないことを学びました。



休憩時には汚水のサンプルを見たり、マンホールのふたの模型で学んだことを確認していました。

○「川の水をきれいにする取り組み」

身近な伊沢谷川や大久保谷川、吉野川にすんでいる生物の話や川にアプローチできるよう親水護岸が造られていること、また善入寺島の歴史について学びました。



大雨になった時の様々な取り組みや施設、川による水質の違い、川をきれいにするための地域の人の活動について学びました。専門的な言葉にも熱心に聞いていました。



○「水の汚れの原因」（パケットテストによる水質実験と透視度測定）

水質実験の説明と測定方法の説明を受けた後、選ばれた児童が前に出て実験を行いました。



パケットテストによる水質実験では伊沢谷川・大久保谷川・吉野川と7種類の食材で生活排水を作り測定しました。また、透視度測定では大久保谷川と吉野川の比較をしました。



パケットテスト（COD 高濃度）の結果

伊沢谷川	5	大久保谷川	10	吉野川	5
米のとぎ汁	10	牛乳	20	しょうゆ	20
みそ汁	20	ラーメンのスープ	20		
マヨネーズ	20	焼肉のタレ	100		

透視度測定の結果

大久保谷川	90 cm
吉野川	65 cm

焼肉のタレは予想通りの結果でしたが、教室は100の数値に驚きの声があがりました。透視度測定では椅子に座りながらも、測定している児童と一緒に数値の確認をしていました。



最後に、川を汚さないようにするために自分たちでできること、まわりの人にも身近な川に関心をもってもらうことが大切であるということ学びました。